

設 置 構 想 の 概 要

区分	短期大学の学科の設置					
名称	静岡英和女学院短期大学	申請者	学校法人 静岡英和女学院		開設予定年度	平成 14 年
位置	静岡県静岡市池田 1769					
学部学科名・入学定員等	学 部 ・ 学 科 名	入学定員	編入学定員	収 容 定 員	学位又は 称 号	備 考
	現代コミュニケーション学科 Contemporary Communication	人 100	人	人 200	準学士	
	計	100			200	
	[]内の数は期間付定員で内数					
設置の趣旨・必要性	<p>1. 設置の趣旨</p> <p>(1) 静岡英和女学院短期大学は、静岡県における最初の女子教育機関として明治 20 (1887) 年に創立された静岡女学校を母体とし、その長い歴史と伝統を生かし、高等教育機関に対する地域の要請を受け、昭和 41 (1966) 年に創立された。</p> <p>(2) 本学院の建学の精神はキリスト教精神に基づく「愛と奉仕」による教育であり、これを学院モットーとしている。短期大学は、現在入学定員英文学科 150 名、国文学科 100 名、国際教養学科 100 名、食物学科 80 名、計 430 名であり、開学以来 12,000 名を超える有為な女性を育成し、地域社会の発展に貢献してきた。</p> <p>(3) しかし、国際化、情報化、価値観の多様化等により、ますます混迷の度合いを深めていく現代社会に対応するためには、より広範な場における、高度で現実的なコミュニケーションの運用能力の養成が必要とされてきている。新しい世紀の変わり目に立って、本短期大学はキリスト教女子教育の伝統を継承しながらも、これまで行ってきた英文学科、国文学科、国際教養学科の文系 3 学科の教育研究活動を発展的に改組して、新しく現代コミュニケーション学科を設置することとした。</p> <p>本学科の行う教育は、英語と日本語の運用能力はもとより、心理学的な側面からコミュニケーション能力を促進させ、コンピュータの運用能力を含めた国際社会に対応できるコミュニケーション能力の基礎的資質を養成し、創造性豊かで時代の変化に柔軟に対応でき、もって 21 世紀の国際社会の共通課題の基礎を認識できる人材を育成するものである。</p>					

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">設置の趣旨・必要性</p>	<p>2. 設置の必要性</p> <p>(1) 短期大学文系3学科の発展的整備拡充を図る 英文学科、国文学科、国際教養学科を改組転換し、キリスト教女子教育の建学の精神を堅持しつつ、新たな視点から人間相互のコミュニケーションのあり方を探究する「現代コミュニケーション学科」を設置する。目下、4年制大学への改組も同時に申請中であるが、開設の暁には、中学・高等学校、短期大学、4年制大学と、静岡英和のキリスト教一貫教育体制がより堅固なものとなり、一貫した人格教育、人間教育を施すことが期待できる。</p> <p>(2) 現代社会の急激な変化に応えるコミュニケーション能力の養成 21世紀を迎え、情報化、国際化が急激に進み、社会の様相が複雑化し、人間の価値観も多様化してきている。これまでの言語文化活動における「ひずみ」が社会のあちこちで見られ、コンピュータを中心としたIT革命が加速化している。本学科では深い人間理解と教養に基づき、コミュニケーションの原点に立ち返って、言語とコンピュータの運用能力を高め、他者と共存できる自立した新しい価値観を現代社会に実現していく人材の育成を目指す。</p> <p>(3) 国際社会で活躍できる女性の基礎的能力の養成 社会の急激な変化に対応するとともに、国際化に対応することが今日の最重要課題のひとつであろう。本短期大学はカナダの大学と提携を結び、これまで10年間、毎年約15名の学生を1年留学に送りだしており、留学経験者は社会のあちこちで活躍している。本学科でもこの制度を継承し、これに対応する準備講座を充実させ、国際社会で活躍できる女性の基礎的能力の養成を目指す。</p> <p>3. 「平成12年度以降の大学設置に関する審査の取扱方針」の適応 本学科は、入学定員の増を伴わない改組転換であり、上記取扱方針二-1-(2)①の改組転換に該当すると考える。教員組織等を基に、当該短期大学の収容定員の増加を伴うことなく、当該短期大学に他の学科を設置するための申請である。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育課程編成の考え方・特色</p>	<p>1. 教育課程編成の考え方・特色 現代コミュニケーション学科の教育課程は、短期大学の特色を生かして、教養教育と実務教育を有機的に連関させることを意図して編成し、基礎教育科目と専門教育科目から構成される。</p> <p>(1) 基礎教育科目 建学の精神を理解する科目、人間・社会・自然に対する幅広い見方を獲得する科目、女子教育の視点から特に女性固有の問題を理解する科目、日本語と外国語の基本的なコミュニケーション能力を養う科目、コンピュータの基本的リテラシーを修得する科目、そしてゼミ形式でアカデミックスキルを修得させる基礎演習科目を配置した。</p> <p>(2) 専門教育科目 現代コミュニケーションに関する専門教育科目を配置している。大きく基礎科目群と展開科目群に分類し、体系的に編成した。コミュニケーションの基層を見直す意味から、心理学関係科目を配置した。</p> <p>①基礎科目 専門教育科目のコアとなる必修科目群で、コミュニケーションの概論的、基礎理論的背景を理解させ、英語、日本語、メディア表現を通してコミュニケーション能力を重点的に修得できるように編成した。</p> <p>②展開科目 専門の基礎科目を受け、展開する科目である。学生の興味関心や卒業後の進路に対応した実務および情報処理の能力を身につける科目、また実習・実地研修を通して実践的な課題に挑戦させるフィールドワーク科目を配置した。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育課程編成の考え方・特色</p>	<p>2. 教育方法</p> <p>(1) セメスター制 教育効果の観点から、ゼミ、専門演習等のアカデミックスキルを指導する科目、第2外国語科目以外は、原則として半期で科目の単位が取得できるセメスター制をとる。</p> <p>(2) 少人数教育による個別指導の徹底 ゼミ形式をとり、指導教員のもとで学生の主体的な問題意識と課題探求能力を養成するとともに、学生生活についても相談できるようにする。</p> <p>(3) 英語の習熟度別クラス編成 英語の基礎から上級まで、レベルに応じた英語コミュニケーション能力を獲得できるようにする。</p> <p>(4) 情報関連教育の充実 パソコンを使った英語教育や情報処理教育に力を入れ、新しいコミュニケーションに対する適応力をつける。</p> <p>(5) カリキュラムと連動したフィールドワーク グローバルな視点から、あるいは歴史と文化の起原を求めて、教室では体験できない実地研修・実習を通して実践的な課題に挑戦させるため、フィールドワークを行う。</p> <p>(6) シラバスの作成 授業内容を明らかにし、授業展開を具体的に示して、学生が主体的に学習できるように、また教員間の密接な連携による効果的授業ができるように、シラバスを作成する。</p> <p>(7) 学生による授業評価 各科目の授業内容、授業方法とカリキュラム改善および本学科教育の活性化をねらい、全開設科目を対象に授業評価を行う。その結果をそれぞれの改善に役立てる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">備考</p>	